

[ 研究区分：学際的・先端的研究 (学長プロジェクト) ]

|  |                             |
|--|-----------------------------|
| 研究テーマ： 長寿と活力を生み出す地域社会と大学の連携に関する研究  |                             |
| 研究代表者： 保健福祉学部 理学療法学科<br>教授・小野武也  | 連絡先： ono@pu-hiroshima.ac.jp |
| 共同研究者： 長寿・活力シナジー効果研究：原田俊英 ほか2名，<br>長寿の横断的・縦断的研究：田中聡 ほか11名，<br>活力社会支援研究：住居広士 ほか9名   |                             |
| <b>【研究概要】</b><br>高齢化社会の今，長寿と活力社会を生み出す地域社会と大学の連携について研究を行った。長寿・活力シナジー効果研究では，三原市周辺地域の中老年女性を対象として，メタボリックシンドローム等に関する検診を実施した。長寿の横断的・縦断的研究では，介護予防期，要介護期，終末期に分けて研究を実施した。活力社会支援研究では，災害時の心身の健康維持への備え，食生活支援システムの構築，支援機器開発を行った。研究を通して地域社会と大学の連携を強めることができた。 |                             |

**【研究内容・成果】**

本研究テーマは，高齢化社会には不可欠な保健医療福祉分野からのアプローチである。日本は100歳以上の人口が5万人を超え，3人に1人が65歳以上の高齢化社会となり，団塊の世代である約800万人が定年を迎え，この大波は10年後の医療・介護に押し寄せる。70歳未満の年間の医療費が18万円/人に対して70歳以上は80万円/人である。高齢化問題は本邦が抱える喫緊の課題である。

長寿・活力シナジー効果研究

長寿と活力を生み出す地域社会と大学の連携に関する研究では，シナジー効果を期待して研究成果を地域に効果的に還元し地域社会の健康と活力に貢献し，かつそのことを通して地域社会と大学との連携をさらに強めていくことを目的とした。そのため，複数回のセミナーや講演会を実施した。

**高齢者疾患の保健・医療・介護・福祉支援プログラム  
平成25年度健骨・健康増進セミナー  
～生活習慣で認知症・骨粗鬆症を予防する！～**

日時：平成26年3月23日（日）9時30分～12時30分  
会場：県立広島大学三原キャンパス4号館1階 4101講義室  
※ 駐車スペースがございません。バスなどをご利用ください。

対象：どなたでもご参加いただけます。申し込み不要。  
(希望者には受講証をお渡します)。

プログラム：  
講演（9：30～11：20）  
座長 石崎 文子（広島都市学園大学 副学長）

- 生活習慣と認知症について  
県立広島大学理学療法学科 教授 原田 俊英
- 栄養学的にみた認知症予防の問題点と実際（その2）  
- 縦断調査の重要性 -  
鈴奈女子短期大学食物栄養学科 准教授 新田由美子
- 豊かな感情で認知症予防  
広島大学大学院医歯薬保健学研究科応用生命科学部門 教授 宮口 英樹
- テンポを変えて運動量をコントロール  
県立広島大学理学療法学科 准教授 塩川 満久
- 生活習慣病と骨との関係  
藤田保健衛生大学公衆衛生学教室 講師 飯田 忠行

※ 健骨・健康増進セミナー検診（平成25年12月15日、16日）を受けられた方には結果をご説明いたします（11：30～12：00）。

主催 県立広島大学保健福祉学部「健骨・健康増進支援チーム」  
〒723-0053  
三原市学園町1-1 県立広島大学三原キャンパス内  
「健骨・健康増進支援チーム」事務局

県立広島大学重点研究（学長プロジェクト）公開講座  
～排泄障害の理解と対応～

**若い人にも多い，** **事前申し込み不要**  
**参加費無料**

**頻尿・尿もれ・便もれの問題で**  
**悩まないための対処法**

【日時】平成25年 12月15日（日）13時～16時（受付12時30分～）  
定員（250名）を超えた場合は他の講義室においての映像視聴となります。

『**排便障害の病気とメカニズム**』  
亀田京橋クリニック 診療部長 医師 神山剛一先生

『**排便障害への対応**』  
特定医療法人社団高野会 高野病院  
理学療法士 植野正裕先生

『**排尿障害の病気とメカニズム**』  
市立戸屋病院 産婦人科部長 医師 木村俊夫先生

『**排尿障害への対応**』  
甲南女子大学 看護リハビリテーション学部  
理学療法学科 講師 松谷綾子先生

【会場】県立広島大学三原キャンパス（三原市学園町1-1）  
【アクセス】JR三原駅南口 バス5番乗り場から  
芸陽バス「頼兼線」に乗車（約15分）  
「県立広島大学」で下車

【問い合わせ先】県立広島大学保健福祉学部  
E-mail：tsumiyama@pu-hiroshima.ac.jp  
☎（0848）60-1225 担当者 小野・梅井・積山

[ 研究区分：学際的・先端的研究 (学長プロジェクト) ]

地域住民を対象として実施した検診では、3大寝たきり要因である①脳血管疾患、②認知機能障害、③骨折・転倒、に関して健常なうちから加齢による変化を追跡調査した。研究協力者にはリアルタイムに研究成果を還元し、食事・運動を含めた生活習慣改善へのアドバイスをを行った。これらは、当初の計画をほぼ遂行できたと考えている。排泄障害については公開講座の開催により参加者の啓発ができた。

長寿の横断的・縦断的研究

活力社会支援研究セミナー 第1回市民講座  
**パークス博士のグリーフケア講演会ご案内 先着200名**  
**Dr. Colin Murray Parkes**  
 ロンドン大学名誉教授、精神科医、大英帝国四等勲士、死別悲嘆研究の第一人者、複雑性悲嘆の診断基準づくりに寄与し、グリーフケアの第一人者としてスマトラ沖地震時に現地入り、被災者に寄り添う。遺族支援団体 "Cruse Bereavement Care" 終身会長、St.クリストファー・ホスピス名誉顧問  
 日時: 2013年10月12日(土) 14:00-16:00  
 場所: 広島県健康福祉センター8階大研修室(広島市南区皆実町1-6-29)  
 主催: 県立広島大学パークス博士招聘委員会  
 講演内容: 「悲嘆のケアについて」 通訳付き  
 死別後の喪失とグリーフケアについて皆さまと語り合うことにより、これからの少子高齢化多死時代の日本から世界に向けたメッセージをお伝えします。  
 座長: 山口 昇(広島県地域包括ケア推進センター長)  
 コメンテーター: 笠松 淳也(広島県健康福祉局長)  
 参加費: 3,000円  
 申し込み先: 県立広島大学パークス博士招聘委員会事務局 狩谷・水島宛 (griefcare1019@gmail.com, FAX0848-60-1272)  
 ①お名前②ご所属③職種④連絡先(メール、FAX、電話番号)を記載してお申し込みください。申し込み受付の返信をご確認ください。定員になり次第締め切ります。  
 アクセス: ▼バス(広島電鉄) 広島駅から5番比治山線「南区役所前」下車 広島駅から大学病院行き、西広島駅から大学病院・旭町行きで「比治山橋」または「皆実町一丁目」下車、横川駅から仁保方面行きで「皆実町一丁目」下車(広島バス) 広島駅から旭町行きで「比治山橋」下車、横川駅から大学病院行きで「比治山橋」または「皆実町一丁目」下車

人は身体的、心理的、社会的に見て多様な側面を併せ持っており、「全人間的」な視点から捉える必要がある。そのために、我々は介護予防期、要介護期、終末期に分けて研究に取り組んだ。介護予防期研究では、主として身体機能と運動機能の関係について研究を行い、転倒予防や健康増進について研究を行った。要介護期研究では、身体機能が低下しても、作業を継続することにより精神のおよび社会的健康を保持することができる症例を報告した。終末期研究では、グリーフケアにくわえ少子高齢化の進むこれからの社会で、心身の不自由さを感じながら暮らす人、がんや認知症などの病気と暮らす人たちが、今まで生きてきた住み慣れた場所で暮らし続けるにはどうしたらよいのかについて検討した。

活力社会支援研究

地域包括支援システムでは、災害による心身の健康維持に備えるため、東日本大震災の現場で支援に当たった関係者を招いてセミナーを開催した。

食支援システムでは、食生活支援システムを構築した。モニター調査を実施した結果、購入食材バランスガイドは比較的短い期間の使用でも、約7割のモニターが栄養管理に対する必要度を高めていることが示された。

『三原市 ICT健康・ライフサポート 複合モデル事業構想』(仮称)

| 背景   | 具体的取組   | アウトプット・成果  |
|--|---|--|
| <p>○三原市の課題</p> <p>□元氣な高齢者が日頃から積極的に外出して地域の活動に参加し、地域の人と交流する。</p> <p>□交流することにより、生きがいややりがいを見つけ、生涯を通じて、心身ともに健康に過ごせるよう介護予防の取り組みを行う必要がある。</p> | <p>○ ICTを活用し高齢者が健康で長生きできる地域づくり、高齢者の情報を一元的に集約・管理し、小さな変化に目がいきとどくやさしいまちづくりをめざす。</p> <p><b>【機能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おつかいテレビ(ケーブルテレビ)</li> <li>・<b>食品バランスガイド(おつかいテレビ・県立広島大学共同)</b></li> <li>・ポイント制(おつかいテレビ)</li> <li>・おもてなしレシピ(おつかいテレビ)など</li> </ul> | <p>○ミッション(成果)</p> <p>◇多くの人が加入又は所有するケーブルテレビ、スマートフォン、ICカードをツールとし、ICTを活用した情報提供をおこなえる環境を整備</p> <p>◇無理なく楽しく「健康」を意識することを、最初のステップとする。</p> |

  

**事業体制** (連携主体)  
 三原テレビ放送(株) 三原市保健福祉部高齢者福祉課

**機能**  
 おつかいテレビ おもてなしレシピ

**産**  
 国際マイコンサービス株  
 三原スパー  
 三原商工会議所青年部  
 とまはうす  
 マジックミシン  
 ワークショップアトム

**学**  
 公立大学法人 県立広島大学 保健福祉学部

**官**  
 三原市医師会  
 三原市中央地域包括支援センター  
 三原市  
 宗郷町内会

制作意欲 社会参加  
 公共施設  
 ポイント制  
 ポイントを使った買い物

食品購入履歴をもとに栄養バランス表示する。  
 食生活支援 食品バランスガイド

[ 研究区分：学際的・先端的研究（学長プロジェクト） ]